

昭和七年法律第二十号

手形法

第一編 為替手形

第一章 為替手形ノ振出及方式

第一条 為替手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 証券ノ文言中ニ其ノ証券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル為替手形ナルコトヲ示ス文字
二 一定ノ金額ヲ支払フベキ旨ノ單純ナル委託
三 支払ヲ為スベキ者(支払人)ノ名称
四 満期ノ表示
五 支払ヲ為スベキ地ノ表示
六 支払ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指図スル者ノ名称
七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示
八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第二条 前条ニ掲グル事項ノ何レカヲ欠ク証券ハ為替手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

満期ノ記載ナキ為替手形ハ之ヲ一覽払ノモノト看做ス
支払人ノ名称ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支払地ニシテ且支払人ノ住所タルモノト看做ス
振出地ノ記載ナキ為替手形ハ振出人ノ名称ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三条 為替手形ハ振出人ノ自己指図ニテ之ヲ振出スコトヲ得

為替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得
為替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得

第四条 為替手形ハ支払人ノ住所ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支払フベキモノト看做ス

第五条 一覽払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ為替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ為サザルモノト看做ス

利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ為サザルモノト看做ス

利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス
第六條 為替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス

為替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

第七条 為替手形ニ手形債務ノ負担ニ付キ行為能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、仮設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ為替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ為其ノ効力ヲ妨ゲザルコトナシ

第八条 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ為替手形ニ署名シタルトキハ自ラノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支払ヲ為シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同シ

第九条 振出人ハ引受及支払ヲ担保ス

振出人ハ引受ヲ担保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支払ヲ担保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十条 未完成ニテ振出シタル為替手形ニ予メ為シタル合意ト異ル補充ヲ為シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ為替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 裏書

第十一条 為替手形ハ指図式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得
振出人ガ為替手形ニ「指図禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ証券ハ民法(明治二十九年法律第八十九号)第三編第一章第四節ノ規定ニ依ル債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ効力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得

裏書ハ引受ヲ為シタル又ハ為サザル支払人、振出人其ノ他ノ債務者ニ対シテモ之ヲ為スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

第十二條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル条件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス
持參人私ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ効力ヲ有ス

第十三條 裏書ハ為替手形又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ為シ又ハ単ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ為スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ為替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ為スニ非ザレバ其ノ効力ヲ有セズ

第十四條 裏書ハ為替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス
裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ
一 自己ノ名称又ハ他人ノ名称ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得
二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得
三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ為サズシテ手形ヲ裏書スルコトヲ得

第十五條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受及支払ヲ担保ス

裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ手形ノ爾後ノ被裏書人ニ対シ担保ノ責ヲ負フコトナシ

第十六條 為替手形ノ占有者ガ裏書ノ連続ニ依リ其ノ權利ヲ証明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同ジ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ為シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做ス

事由ノ何タルヲ問ハズ為替手形ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ所持人ガ前項ノ規定ニ依リ其ノ權利ヲ証明スルトキハ手形ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 為替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ対スルノ關係ニ基クテ抗弁ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 裏書ニ「回収ノ為」、「取立ノ為」、「代理ノ為」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ為替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ為ノ裏書ノ前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗弁ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル

代理ノ為ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ行為能力ノ制限ヲ受ケタルコトニ因リ終了セズ

第十九條 裏書ニ「担保ノ為」、「質入ノ為」其ノ他質權ノ設定ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ為替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ノ為シタル裏書ハ代理ノ為ノ裏書トシテノ効力ノミヲ有ス

債務者ハ裏書人ニ対スルノ關係ニ基クテ抗弁ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十条 満期後ノ裏書ハ満期前ノ裏書ト同一ノ効力ヲ有ス但シ支払拒絶証書作成後ノ裏書又ハ支払拒絶証書作成期間經過後ノ裏書ハ民法第三編第一章第四節ノ規定ニ依ル債權ノ讓渡ノ効力ノミヲ有ス

日附ノ記載ナキ裏書ハ支払拒絶証書作成期間經過前ニ之ヲ為シタルモノト推定ス

第三章 引受

第二十一條 為替手形ノ所持人又ハ單ナル占有者ハ満期ニ至ル迄引受ノ為支払人ニ其ノ住所ニ於テ之ヲ呈示スルコトヲ得

第二十二條 振出人ハ為替手形ニ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ為之ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

振出人ハ手形ニ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ズル旨ヲ記載スルコトヲ得但シ手形ガ第三者方ニテ若ハ支払人ノ住所ニ在ラズニ於テ支払フベキモノナルトキ又ハ一覽後定期払ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

振出人ハ一定ノ期日前ニハ引受ノ為ノ呈示ヲ為スベカラザル旨ヲ記載スルコトヲ得
各裏書人ハ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ為手形ヲ呈示スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得但シ振出人ガ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ズタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 一覽後定期払ノ為替手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ引受ノ為之ヲ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ前項ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得

裏書人ハ前二項ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十四條 支払人ハ第一ノ呈示ノ翌日ニ第二ノ呈示ヲ為スベキコトヲ請求スルコトヲ得利害關係人ハ此ノ請求ガ拒絶証書ニ記載セラレタルトキニ限り之ニ応ズル呈示ナカリシコトヲ主張スルコトヲ得

所持人ハ引受ノ為ニ呈示シタル手形ヲ支払人ニ交付スルコトヲ要セズ

第二十五條 引受ハ為替手形ニ之ヲ記載スベシ引受ハ「引受」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ支払人署名スベシ手形ノ表面ニ為シタル支払人ノ單純署名ハ之ヲ引受ト看做ス

一覽後定期払ノ手形又ハ特別ノ記載ニ從ヒ一定ノ期間内ニ引受ノ為ノ呈示ヲ為スベキ手形ニ

於テハ所持人ガ呈示ノ日ノ日附ヲ記載スベキコトヲ請求シタル場合ヲ除クノ外引受ニハ之ヲ為シタル日ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス日附ノ記載ナキトキハ所持人ハ裏書人及振出人ニ対スル遡求權ヲ保全スル為ニハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絶証書ニ依リ其ノ記載ナカリシコトヲ証スルコトヲ要ス

第二十六条

引受ハ單純ナルベシ但シ支払人ハ之ヲ手形金額ノ一部ニ制限スルコトヲ得

第二十七条

振出人ガ支払人ノ住所地下異ル支払地ヲ為替手形ニ記載シタル場合ニ於テ第三者方ニテ支払ヲ為スベキ旨ヲ定メザリシトキハ支払人ハ引受ヲ為スニ當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得之ヲ定メザリシトキハ引受人ハ支払地ニ於テ自ラ支払ヲ為ス義務ヲ負ヒタルモノト看做ス

第二十八条

支払人ハ引受ニ因リ滿期ニ於テ為替手形ノ支払ヲ為ス義務ヲ負フ

第二十九条

為替手形ニ引受ヲ記載シタル支払人ガ其ノ手形ノ返還前ニ之ヲ抹消シタルトキハ引受ヲ拒ミタルモノト看做ス抹消ハ証券ノ返還前ニ之ヲ為シタルモノト推定ス

第三十条

為替手形ノ支払ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保証ニ依リ之ヲ担保スルコトヲ得

第三十一条

保証ハ「保証」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ保証人署名スベシ

第三十二条

保証ハ其ノ担保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有効トス

第三十三条

為替手形ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

第三十四条

一覽後定期払
二 日附後定期払
三 確定日払
四 前項ト異ル滿期又ハ分割払ノ為替手形ハ之ヲ無効トス

第三十五条

一覽後定期払ノ為替手形ハ呈示アリタルトキ之ヲ支払フベキモノトス此ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支払ノ為ニテ呈示スルコトヲ要ス

保証ニハ何人ノ為ニ之ヲ為スカヲ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第三十二条

保証人ハ保証セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ

第三十三条

保証人ガ為替手形ノ支払ヲ為シタルトキハ保証セラレタル者及其ノ者ノ為替手形上ノ債務者ニ対シ為替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第三十三条

為替手形ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得

第三十四条

一覽後定期払
二 日附後定期払
三 確定日払
四 前項ト異ル滿期又ハ分割払ノ為替手形ハ之ヲ無効トス

第三十五条

一覽後定期払ノ為替手形ハ呈示アリタルトキ之ヲ支払フベキモノトス此ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支払ノ為ニテ呈示スルコトヲ要ス

第三十六条

日附後又ハ一覽後一月又ハ數月払ノ為替手形ハ支払ヲ為スベキモノトス於ケル應当日ヲ以テ滿期トス應当日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿期トス

第三十七条

日附後又ハ一覽後一月半又ハ數月半払ノ為替手形ニ付テハ先ヅ全月ヲ計算ス

第三十八条

振出地ト替手形ノ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支払フベキ為替手形ニ付テハ滿期ノ日ハ支払地ノ曆ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

第三十九条

為替手形ノ所持人ハ滿期前ニハ其ノ支払ノ受ケルコトヲ要セス

第四十条

為替手形ノ所持人ハ滿期前ニハ其ノ支払ノ受ケルコトヲ要セス

第四十一条

支払地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支払フベキ旨ヲ記載シタル為替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支払フベキ旨ヲ得債務者ガ支払ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選択ニ依リ滿期ノ日又ハ支払ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ為替手形ノ金額ヲ支払フベキコトヲ請求スルコトヲ得

曆ヲ異ニスル地ノ間ニ振出シタル為替手形ガ日附後定期払ナルトキハ振出ノ日ヲ支払地ノ曆ノ應当日ニ換ヘテ之ニ依リテ滿期ヲ定ム

第六节

支払
第三十八条 確定日払、日附後定期払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ所持人ハ支払ヲ為スベキ日又ハ二二次グ二取引日内ニ支払ノ為手形ヲ呈示スルコトヲ要ス

第三十九条

為替手形ノ所持人ハ支払ヲ為スニ當リ所持人ニ対シ手形ニ受取ヲ証スル記載ヲ為シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

第四十条

為替手形ノ所持人ハ滿期前ニハ其ノ支払ノ受ケルコトヲ要セス

第四十一条

支払地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支払フベキ旨ヲ記載シタル為替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支払フベキ旨ヲ得債務者ガ支払ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選択ニ依リ滿期ノ日又ハ支払ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ為替手形ノ金額ヲ支払フベキコトヲ請求スルコトヲ得

第四十二条

外國通貨ノ價格ハ支払地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支払金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

第四十三条

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支払フベキ旨(外國通貨現実支払文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四十四条

振出国ト支払國トニ於テ同名異価ヲ有スル通貨ニ依リ為替手形ノ金額ヲ定メタルトキハ支払地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス

第四十五条

所持人ハ拒絶証書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ対シ引受拒絶又ハ支払拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ

第四十六条

所持人ハ拒絶証書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ対シ引受拒絶又ハ支払拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ

第四十七条

引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキニ引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ破産手續開始ノ決定ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ガ破産手續開始ノ決定ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ遡求權ヲ行フニハ破産手續開始ノ決定ノ裁判書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十八条

所持人ハ拒絶証書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ対シ引受拒絶又ハ支払拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ

持人ノ費用及危険ニ於テ手形金額ヲ所轄官署ニ供託スルコトヲ得

第七章

引受拒絶又ハ支払拒絶ニ因ル遡求
第四十三条 滿期ニ於テ支払ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ対シ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ滿期前ト雖モ亦同ジ

第四十四条

引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキニ引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ破産手續開始ノ決定ヲ受ケタル場合、其ノ支払停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ対スル強制執行ガ効ヲ奏セザル場合

第四十五条

引受ノ為ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ガ破産手續開始ノ決定ヲ受ケタル場合

第四十六条

引受又ハ支払ノ拒絶ハ公正証書(引受拒絶証書又ハ支払拒絶証書)ニ依リ之ヲ証明スルコトヲ要ス

第四十七条

引受拒絶証書ハ引受ノ為ノ呈示期間内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス第二十四条第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第一ノ呈示アリタルトキハ拒絶証書ハ其ノ翌日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ得

第四十八条

確定日払、日附後定期払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ支払拒絶証書ハ為替手形ノ支払ヲ為スベキ日又ハ二二次グ二取引日内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス一覽後ノ手形ノ支払拒絶証書ハ引受拒絶証書ノ作成ニ関シテ前項ニ規定スル条件ニ從ヒ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第四十九条

引受拒絶証書アルトキハ支払ノ為ノ呈示及支払拒絶証書ヲ要セス

第五十条

引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ支払ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ対スル強制執行ガ効ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支払人ニ対シ手形ノ支払ノ為ノ呈示ヲ為シ且拒絶証書ヲ作ラシメタル後ニ非ザレバ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

第五十一条

引受ヲ為シタル若ハ為サザル支払人ガ破産手續開始ノ決定ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ為ノ呈示ヲ禁ジタル手形ノ振出人ガ破産手續開始ノ決定ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ遡求權ヲ行フニハ破産手續開始ノ決定ノ裁判書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第五十二条

所持人ハ拒絶証書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ対シ引受拒絶又ハ支払拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ

第五十三条

所持人ハ拒絶証書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ対シ引受拒絶又ハ支払拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ

二取引日内二前ノ通知者全員ノ名称及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ為替手形ノ署名者ニ通知ヲ為スコトキハ同一期間内ニ其ノ保証人ニ同一ノ通知ヲ為スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ読ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル

通知ヲ為スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ為スコトヲ得單ニ為替手形ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ為スコトヲ得

通知ヲ為スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ為シタルコトヲ証明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ為ス書面ヲ郵便ニ付シ又ハ民間事業者による信書ノ送達に關する法律(平成十四年法律第九十九号)第二条第六項ニ規定スル一般信書事業者若ハ同条第九項ニ規定スル特定信書便事業者ノ提供スル同条第二項ニ規定スル信書便ノ役務ヲ利用シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

前項ノ期間内ニ通知ヲ為サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ為替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十六条 振出人、裏書人又ハ保証人ハ証券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絶証書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フ為メ引受拒絶証書又ハ支払拒絶証書ヲ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル為替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ証明ヲ為スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ効力ヲ生ズ裏書人又ハ保証人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保証人ニ對シテノミ其ノ効力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶証書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人ノ之ヲ負擔ス裏書人又ハ保証人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶証書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十七条 為替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保証ヲ為シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ

所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ為スコトヲ得

為替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利ヲ有ス

債務者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨グズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ

第四十八条 所持人ハ遡求ヲ受クル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 引受又ハ支払アルトキハ其ノ金額及利息ノ記載アルトキハ其ノ利息

二 法定利率(国内ニ於テ振出し且支払フベキ為替手形以外ノ為替手形ニ在リテハ年六分ノ率次条第二号ニ於テ同ジ)ニ依ル満期以後ノ利息

三 拒絶証書ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用

満期前ニ遡求權ヲ行フトキハ割引ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所地ニ於ケル遡求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リ之ヲ計算ス

第四十九条 為替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支払ヒタル總金額

二 前号ノ金額ニ對シ法定利率ニ依リ計算シタル支払ノ日以後ノ利息

三 其ノ支払ヒタル費用

第五十条 遡求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支払ト引換ニ拒絶証書、受取ヲ証スル記載ヲ為シタル計算書及為替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

為替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第五十一条 一部引受ノ後ニ遡求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支払ヲ及受取者ハ其ノ支払ノ旨ヲ手形ニ記載スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ遡求ヲ為スコトヲ得シムル為メ手形ノ證明書及拒絶証書ヲ交付スルコトヲ要ス

出ス一覽払ノ為替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手形ノ振出人ガ其ノ住所地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出ス一覽払手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十二条 左ノ期間ガ経過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 一覽払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ呈示期間

二 引受拒絶証書又ハ支払拒絶証書ノ作成期間

三 無費用償還文句アル場合ニ於ケル支払ノ為メノ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ為メ呈示ヲ為サザルトキハ所持人ハ支払拒絶及引受拒絶ニ因ル遡求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ担保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

裏書ニ呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ裏書人ニ限リ之ヲ援用スルコトヲ得

第五十四条 法定ノ期間内ニ於ケル為替手形ノ呈示又ハ拒絶証書ノ作成ガ避クベカラザル障礙(国ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨グラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且為替手形又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五条ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク引受又ハ支払ノ為メ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶証書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ満期ヨリ三十日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示又ハ拒絶証書ノ作成ヲ要セスシテ遡求權ヲ行フコトヲ得

一覽払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ経過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ヲ通知ヲ為シタル日ヨリ進行ス一覽後定期払ノ為替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ為替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ

所持人又ハ所持人ガ手形ノ呈示若ハ拒絶証書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人的事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第八章 通則

第五十五条 振出人、裏書人又ハ保証人ハ予備支払人ヲ記載スルコトヲ得

為替手形ハ遡求ヲ受クベキ何レノ債務者ノ為ニ参加ヲ為ス者ニ於テモ本章ニ規定スル条件ニ從ヒ其ノ引受又ハ支払ヲ為スコトヲ得

参加人ハ第三者、支払人又ハ既に為替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコトヲ得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

参加人ハ其ノ被参加人ニ對シ二取引日内ニ其ノ参加ノ通知ヲ為スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ参加人ハ為替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第二節 参加引受

第五十六条 参加引受ノ為メ呈示ヲ禁ゼザル為替手形ノ所持人ガ満期前ニ遡求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ為スコトヲ得

為替手形ニ支払地ニ於ケル予備支払人ヲ記載シタルトキハ手形ノ所持人ハ其ノ者ガ引受ヲ拒ミ示シ且拒絶証書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタルコトヲ証スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ為シタル者及其ノ後者ニ對シ満期前ニ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

参加ノ他ノ場合ニ於テハ所持人ハ参加引受ヲ拒ムコトヲ得若所持人ガ之ヲ受諾スルトキハ被参加人及其ノ後者ニ對シ満期前ニ有スル遡求權ヲ失フ

第五十七条 参加引受ハ為替手形ニ之ヲ記載シ参加人署名スベシ参加引受ニハ被参加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第五十八条 参加引受人ハ所持人及被参加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被参加人ト同一ノ義務ヲ負フ被参加人及其ノ前者ハ参加引受ニ拘ラズ所持人ニ對シ第四十八条ニ規定スル金額ノ支払ト引換ニ為替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絶証書及受取ヲ証スル記載ヲ為シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得

第三節 参加支払

第五十九条 参加支払ハ所持人ガ満期又ハ満期前ニ遡求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ為スコトヲ得

支払ハ被参加人ガ支払ヲ為スベキ金額ニ付之ヲ為スコトヲ要ス

支払ハ支払拒絶証書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ之ヲ為スコトヲ要ス

第六十条 為替手形ガ支払地ニ住所ヲ有スル参加人ニ依リテ引受ケラザルトキ又ハ支払地ニ住所ヲ有スル者ガ予備支払人トシテ記載セラレタ

ルトキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶証書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ支払拒絶証書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ拒絶証書ノ作成ナキトキハ予備支払人ヲ記載シタル者又ハ被参加人及其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十一条 参加支払拒ミタル所持人ハ其ノ支払ニ因リテ義務ヲ免ルベカリシ者ニ対スル遡求權ヲ失フ

第六十二条 参加支払ハ被参加人ヲ表示シテ為替手形ニシテ受取ノ記載ニ依リテ之ヲ証スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ支払ハ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第六十三条 参加支払人ハ被参加人及其ノ者ノ為替手形上ノ債務者ニ対シテ為替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ為替手形ヲ裏書スルコトヲ得ズ

被参加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル
参加支払ノ競合ニ於テハ最モ多数ノ義務ヲ免レシムルモノ優先ス事情ヲ知リ此ノ規定ニ反シテ参加シタル者ハ義務ヲ免ルベカリシ者ニ対スル遡求權ヲ失フ

第九章 複本及贖本
第六十四条 為替手形ハ同一内容ノ数通ヲ以テ之ヲ振出すコトヲ得

此ノ複本ニハ其ノ証券ノ文言中ニ番号ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ欠クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ為替手形ト看做ス

自己ノ費用ヲ以テ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ対シテ其ノ請求ヲ為シ其ノ裏書人ハ自己ノ裏書人ニ対シテ手続ヲ為スコトニ依リテ之ニ協力シ順次振出人ニ及ブベキモノトス各裏書人ハ新ナル複本ニ裏書ヲ再記スルコトヲ要ス

第六十五条 複本ノ一通ヲ支払ハ其ノ支払ガ他ノ複本ヲ無効ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシムル但シ支払人ハ引受ヲ為シタル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

数人ニ各別ニ複本ヲ譲渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第六十六条 引受ノ為複本ノ一通ヲ送付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通ヲ保持スル者ノ名称ヲ記載スベシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正当ナル所持人ニ対シテ之ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絶証書ニ依リテ左ノ事實ヲ証スルニ非ザレバ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

一 引受ノ為送付シタル一通ヲ請求ヲ為スモ引渡サレザリシコト
二 他ノ一通ヲ以テ引受又ハ支払ヲ受クルコト能ハザリシコト

第六十七条 為替手形ノ所持人ハ其ノ贖本ヲ作ル權利ヲ有ス

贖本ニハ裏書其ノ他原本ニ掲ゲタル一切ノ事項ヲ正確ニ再記シ且其ノ末尾ヲ示スコトヲ要ス贖本ニハ原本ト同一ノ方法ニ従ヒ且同一ノ効力ヲ以テ裏書又ハ保証ヲ為スコトヲ得

第六十八条 贖本ニハ原本ノ保持者ヲ表示スベシ保持者ハ贖本ノ正当ナル所持人ニ対シテ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絶証書ニ依リテ原本ヲ請求ヲ為スコトヲ得引渡サレザリシコトヲ証スルニ非ザレバ贖本ニ裏書又ハ保証ヲ為シタル者ニ対シテ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

贖本作成前ニ為シタル最後ノ裏書ノ後ニ爾後裏書ハ贖本ニ為シタルモノノ効力ヲ有ス一ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ガ原本ニ存スルモノトキハ原本ニ為シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無効トス

第十章 変造
第六十九条 為替手形ノ文言ノ変造ノ場合ニ於テハ其ノ変造後ノ署名者ハ変造シタル文言ニ従ヒテ責任ヲ負ヒ変造前ノ署名者ハ原文言ニ従ヒテ責任ヲ負フ

第七十条 引受人ニ対スル為替手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時効ニ罹ル

所持人ノ裏書人及振出人ニ対スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絶証書ノ日ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時効ニ罹ル

第七十一条 時効ノ完成猶予又ハ更新ハ其ノ事由ガ生ジタル者ニ対シテノミ其ノ効力ヲ生ズ

第七十二条 滿期ガ法定ノ休日ニ当ル為替手形ハ之ニ次ガ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支払ヲ請求スルコトヲ得ズ又為替手形ニ関スル他ノ行為ヲ殊ニ引受ノ為ノ呈示及拒絶証書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ為スコトヲ得

末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ前項ノ行為ヲ為スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次ガ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第七十三条 法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第七十四条 恩恵日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルトヲ問ハズ之ヲ認メズ

第七十五条 約束手形
一 証券ノ文言中ニ其ノ証券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字
二 一定ノ金額ヲ支払フベキ旨ノ單純ナル約束
三 滿期ノ表示
四 支払ヲ為スベキ地ノ表示
五 支払ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指図スル者ノ名称

第六十條 前条ニ掲グル事項ノ何レカヲ欠ク証券ハ約束手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

滿期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽私ノモノト看做ス

振出地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支払地ニシテ且振出人ノ住所タルモノト看做ス

第七十六条 振出地ノ記載ナキ約束手形ハ振出人ノ名称ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第七十七条 左ノ事項ニ関スル為替手形ニ付テノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限り之ヲ約束手形ニ準用ス

第八十條 商法第四編第一章乃至第三章及商法施行法第二百四十四條乃至第二百六十六條ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ効力ヲ有ス

第八十一条 本法施行前ニ振出シタル為替手形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十二条 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十三条 第三十八條第二項(第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ手形交換所ハ法律大臣之ヲ指定ス

第八十四条 拒絶証書ノ作成ニ関スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五条 為替手形又ハ約束手形ヨリ生ジタル權利ガ手続ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、引受人又ハ裏書人ニ対シテ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ為スコトヲ得

第八十六条 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ対スル為替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時効

第八十七条 時効(第七十條及第七十一條) 九 休日、期間ノ計算及恩恵日ノ禁止(第七十條乃至第七十四條)

第三者方ニテ又ハ支払人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支払ヲ為スベキ為替手形(第四條及第二十七條)、利息ノ約定(第五條)、支払金額ニ関スル記載ノ差異(第六條)、第七條ニ規定スル条件ノ下ニ為サレタル署名ノ効果、權限ナクシテ又ハ之ヲ超エテ為シタル署名ノ署名ノ効果(第八條)及白地地為替手形(第十條)ニ関スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス

保証ニ関スル規定(第三十條乃至第三十二條)モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス第三十一條末項ノ場合ニ於テ何人ノ為ニ保証ヲ為シタルカヲ表示セザルトキハ約束手形ノ振出人ノ為ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第七十八條 約束手形ノ振出人ハ為替手形ノ引受人ト同一ノ義務ヲ負フ

第七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十條 商法第四編第一章乃至第三章及商法施行法第二百四十四條乃至第二百六十六條ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ効力ヲ有ス

第八十一条 本法施行前ニ振出シタル為替手形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十二条 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十三条 第三十八條第二項(第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ手形交換所ハ法律大臣之ヲ指定ス

ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ前者ニ対シ
訴訟告知ヲシタルトキハ訴訟ガ終了スル（確
定判決又ハ確定判決ト同一ノ効力ヲ有スルモノ
ニ依リテ其ノ訴ニ係ル権利ガ確定セズシテ訴訟
ガ終了シタル場合ニ在リテハ其ノ終了ノ時ヨリ
六月ガ経過スル）迄ノ間ハ完成セズ
前項ノ場合ニ於テ確定判決又ハ確定判決ト同
一ノ効力ヲ有スルモノニ依リテ其ノ訴ニ係ル權
利ガ確定シタルトキハ時効ハ訴訟ノ終了ノ時ヨ
リ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日
曜日其ノ他ノ一般ノ休日及政令ヲ以テ定ムル日
ヲ謂フ

第八十八條 為替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負
フ者ノ行為能力ハ其ノ本国法ニ依リ之ヲ定ム其
ノ国ノ法ガ他国ノ法ニ依ルコトヲ定ムルトキハ
其ノ他国ノ法ヲ適用ス

前項ニ掲グル法ニ依リ行為能力ヲ有セザル者
ト雖モ他ノ国ノ領域ニ於テ署名ヲ為シ其ノ国ノ
法ニ依レバ行為能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ
負フ

第八十九條 為替手形上及約束手形上ノ行為ノ方
式ハ署名ヲ為シタル地ノ属スル国ノ法ニ依リ之
ヲ定ム

為替手形上及約束手形上ノ行為ガ前項ノ規定
ニ依リ有効ナラザル場合ト雖モ後ノ行為ヲ為シ
タル地ノ属スル国ノ法ニ依レバ適式ナルトキハ
後ノ行為ハ前ノ行為ガ不適式ナルコトニ因リ其
ノ効力ヲ妨ゲラルルコトナシ

日本人ガ外国ニ於テ為シタル為替手形上及約
束手形上ノ行為ハ其ノ行為ガ日本法ニ規定スル
方式ニ適合スル限り他ノ日本人ニ対シ其ノ効力
ヲ有ス

第九十條 為替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人
ノ義務ノ効力ハ其ノ証券ノ支払地ノ属スル国ノ
法ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ掲グル者ヲ除キ為替手形又ハ約束手形
ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ズル効力ハ其
ノ署名ヲ為シタル地ノ属スル国ノ法ニ依リ之ヲ
定ム但シ遡求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者
ニ付証券ノ振出地ノ属スル国ノ法ニ依リ之ヲ
定ム

第九十一條 為替手形ノ所持人ガ証券ノ振出ノ原
因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ証券ノ振出地ノ
属スル国ノ法ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條 為替手形ノ引受ヲ手形金額ノ一部ニ
制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支払ヲ受諾ス

ル義務アリヤ否ヤハ支払地ノ属スル国ノ法ニ依
リ之ヲ定ム
前項ノ規定ハ約束手形ノ支払ニ之ヲ準用ス

第九十三條 拒絶証券ノ方式及作成期間其ノ他為
替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ
必要ナル行為ノ方式ハ拒絶証券ヲ作ルベキ地又
ハ其ノ行為ヲ為スベキ地ノ属スル国ノ法ニ依リ
之ヲ定ム

第九十四條 為替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜
難ノ場合ニ為スベキ手続ハ支払地ノ属スル国ノ
法ニ依リ之ヲ定ム

附則（昭和二十二年二月二七日法律第
一九五号）抄
第十七條 この法律は、公布の後六十日を経過し
た日から、これを施行する。

附則（昭和二十七年七月三一日法律第二
六八号）抄
1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行
する。

附則（昭和五十六年六月一日法律第六一
号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、銀行法（昭和五十六年法律
第五十九号）の施行の日から施行する。

附則（平成二二年二月八日法律第一
五一号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、平成十二年四月一日から施
行する。
（経過措置）

第三条 民法の一部を改正する法律（平成十一年
法律第四十九号）附則第三条第三項の規定に
より従前の例によることとされる準禁治産者及
びその保佐人に関するこの法律による改正規定
の適用については、次に掲げる改正規定を除
き、なお従前の例による。

附則（平成一四年七月三一日法律第一
〇〇号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、民間事業者による信書の送
達に関する法律（平成十四年法律第九十九号）
の施行の日から施行する。

（その他の経過措置の政令への委任）
第三条 前条に定めるもののほか、この法律の施
行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附則（平成一六年六月二日法律第七六
号）抄

（施行期日）
第一条 この法律は、破産法（平成十六年法律第
七十五号）次条第八項並びに附則第三条第八
項、第五条第八項、第十六項及び第二十一項、
第八条第三項並びに第十三条において「新破産
法」という。）の施行の日から施行する。
（政令への委任）

第十四條 附則第二条から前条までに規定するも
ののほか、この法律の施行に関し必要な経過措
置は、政令で定める。

附則（平成一六年二月二日法律第一
四七号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、公布の日から起算して六月
を超えない範囲内において政令で定める日から
施行する。

附則（平成一八年六月二日法律第七
八号）抄
（施行期日）
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年
を超えない範囲内において政令で定める日から
施行する。

附則（平成二九年六月二日法律第四五
号）抄
この法律は、民法改正法の施行の日から施行
する。ただし、第三百三条の二、第三百三条の三、
第二百六十七條の二、第二百六十七條の三及び
第三百六十二條の規定は、公布の日から施行す
る。

（経過措置）
第一条 この法律は、平成十二年四月一日から施
行する。

（施行期日）
第一条 この法律は、銀行法（昭和五十六年法律
第五十九号）の施行の日から施行する。

（施行期日）
第一条 この法律は、平成十二年四月一日から施
行する。

（経過措置）
第一条 この法律は、銀行法（昭和五十六年法律
第五十九号）の施行の日から施行する。

（施行期日）
第一条 この法律は、銀行法（昭和五十六年法律
第五十九号）の施行の日から施行する。

（施行期日）
第一条 この法律は、銀行法（昭和五十六年法律
第五十九号）の施行の日から施行する。